

2024 年度学校評価

自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人百羊学園 昭島幼稚園

1. 本園の特色と教育目標

▶キリスト教的な愛に基づく保育の実践

- ・心が育つ保育
- ・個性を認め合う仲間づくり
- ・平和で民主的な生活環境

▶総合的な学びの実践

- ・ゆたかな直接体験
- ・個の充実と幅広い体験

▶家庭と共に歩む保育の実践

- ・親子登園、お弁当の幼稚園
- ・充実した父母会

私たちが目指すもの



私たちはキリスト教的愛の精神の下、すべての子どもの人権を尊重し、個性や多様性を受け入れて保育にあたります



私たちは子どもの健やかな成長を願い、その実現に向けた環境や関わりを常に研究・検証し、地域の関係諸機関とも連携して幼児教育のさらなる発展を目指し取り組みます



私たちは子育てにあたる家庭をサポートし、子どもの成長を共に支え、豊かな交し合いを通じて「家族の強い絆」の構築に貢献できるよう努めます



学校法人百羊学園 昭島幼稚園

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

▶「より良い保育の研究と実践」

子どもがより主体的に、また興味をもって保育の生活や活動に参加できるように研究し、話し合いながら保育にあたっていく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目（保育内容の検証）		評価	取り組みの様子
1	身辺自立に関する事	A	幼児期に身につけるべき基本的生活習慣の獲得を学年ごとに水準を設け、段階的に取り組む事で、丁寧にあたる事ができた。
2	自己の力に関する事	B	集団生活を通して仲間との相互作用を活用し、個々人の持つ力を養い育てる環境は提供できた。 今後はさらに苦手なことにもチャレンジしたくなるような取り組みや機会が提供できるように研究を重ねていき、園児の自信や意欲を高めていきたい。
3	社会性に関する事	A	生活や活動を通して、人と十分にに関わり、周りの人と協力する力や、話に耳を傾け聞く力、ルールを守ろうとする力など、生きる力の基礎となる社会性をしっかりと身につけることができた。

評価（A：十分に成果があった B:成果があった C:少し課題を残した D:成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	どの子どもにも優しい保育、どの子どもにも楽しい保育の実践ために各自尽力し、また協力できた。 多様な子どもたちそれぞれの視点に立った「十分なこども理解」の上に保育は成り立つことを肝に銘じながら、これからも保育にあたる教師集団でありたい。

評価（A：十分に成果があった B:成果があった C:少し課題を残した D:成果がなかった）

5. 今後取り組むべき課題、次年度への展望（継続）

課題・展望		具体的な取り組みなど
1	よりよい保育の研究、実践	幼児の健やかな成長のためによりよい活動や体験などを提供できるよう、「より良い保育の研究、実践」を目指し保育にあたる教師が向上心をもって仕事にあたる。
2	家庭との連携強化	家庭に保育の現状を伝え関心を高められる機会として、保育参観などの機会を増やすなどオープンエデュケーションの実践に努める。
3	地域社会との連携強化	近隣の商店や施設などとの交流や連携を深め、地域に根差した幼稚園として歩めるよう具体的に取り組む。

6. 学校関係者評価（評価：昭島幼稚園父母会 ／ 学校法人百羊学園評議員会）

昭島幼稚園のオープンエデュケーションに対する取り組みは、保育参観だけではなく、しばしば行われる保育参加や毎月の遠足に同行できるボランティアなど、クラスや保育の様子が分かる機会にも恵まれているので、子どもの園での様子がよくわかり安心につながっている。また、年間9回ほど行われる父母会でもクラスだよりが配布され、担任の先生からも詳しい保育の報告もあり、安心につながっていると思う。その他定期的に掲示される写真報告やブログも、保育の様子がわかる貴重な取り組みだと思う。

（昭島幼稚園父母会）

「障がいを持つ子どもも安心して楽しく通える幼稚園」として、また「地域や家庭と連携し子どもたちに質の高い教育を提供できる幼稚園」としてこれからも歩んでいこうとする姿勢を「昭島幼稚園のミッション」として社会に提示し、教職員が一丸となって積極的に取り組んでいることを評価したい。

これから少子化が進む未来においても「選ばれる幼稚園」として歩めるようにさらに研鑽を積んでいってもらいたい。

（学校法人百羊学園評議員会）